

中部圏、近畿圏直下の地震の 震度分布の公表について

平成18年12月7日
内閣府(防災担当)

東南海、南海地震等に関する専門調査会における検討

➤ 検討の背景

- ・東南海、南海地震については、すでにとりまとめ(平成15年12月)
- ・中部圏、近畿圏の大都市地域で地震が発生した場合の一府県のみでの対応が困難な大規模な被害に対する広域的な防災対策を検討

中部圏、近畿圏の大都市地域直下で発生する可能性のある地震を選定

- ・活断層で発生するM7.0以上の地震
- ・M6.9の地震(活断層が地表で認められていない場合)

ただし、過去500年以内に活動した活断層については、今後100年程度以内に地震が発生する可能性はほとんどないことから対象から除外

地震動の推計

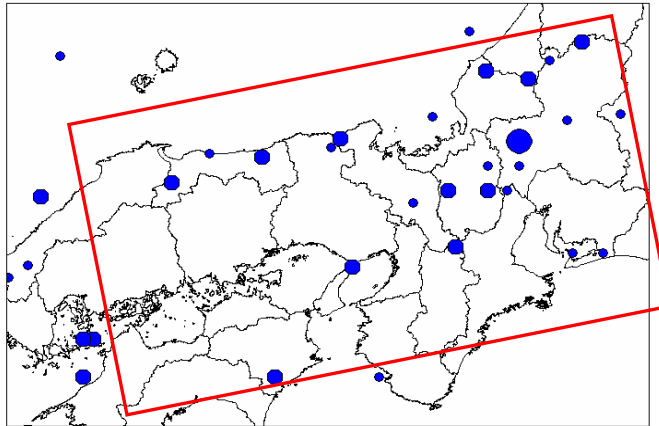
検討対象とする断層で地震が発生した場合の震度分布を推計。(今回公表)

< 今後(平成19年) >

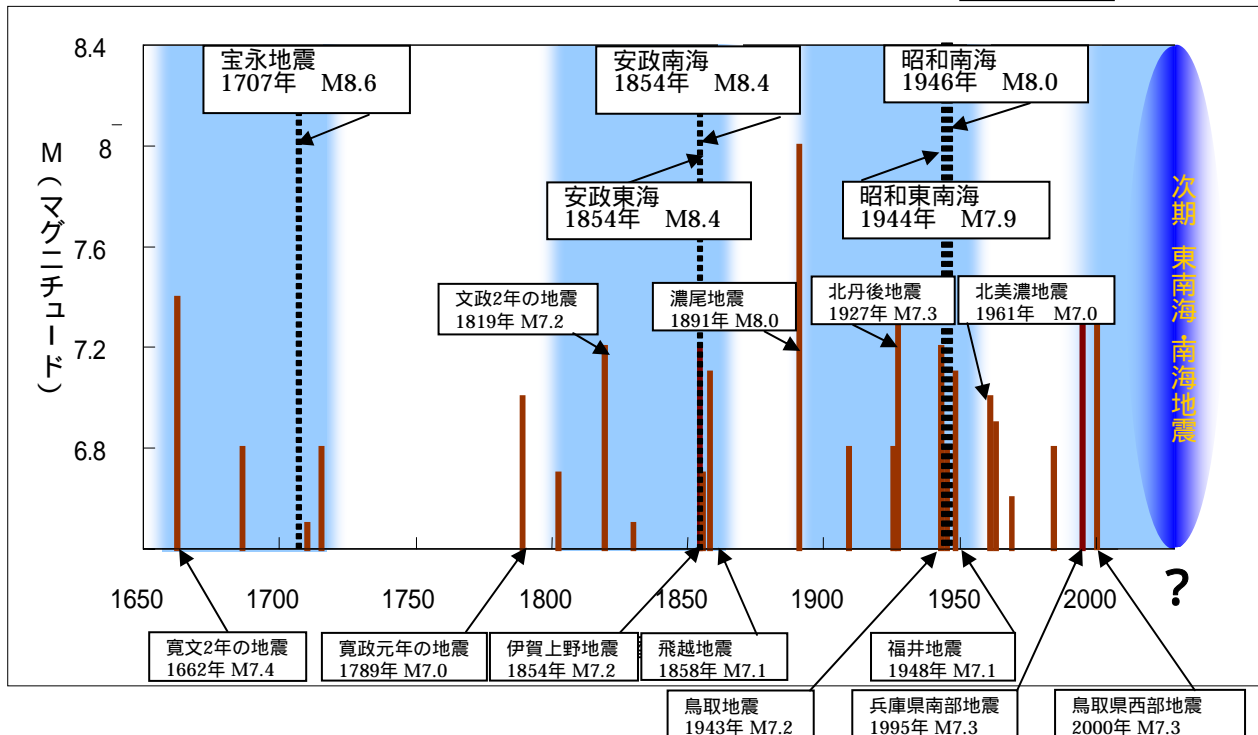
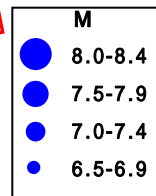
被害想定の実施、地震防災対策のとりまとめ

地震動推計結果に基づき、建物被害や人的被害、ライフラインや交通機関の被害、避難者数、経済被害等の推計を実施するとともに、地震防災対策を検討

西日本の地震活動

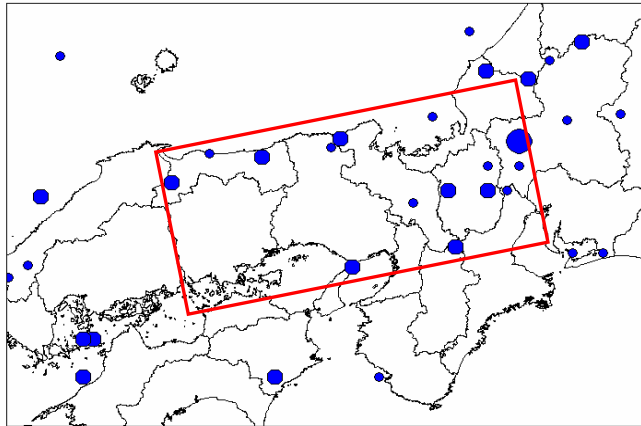


西日本の内陸で発生した地震の震央分布
(1650年以降、深さ30km以浅、M6.5以上)

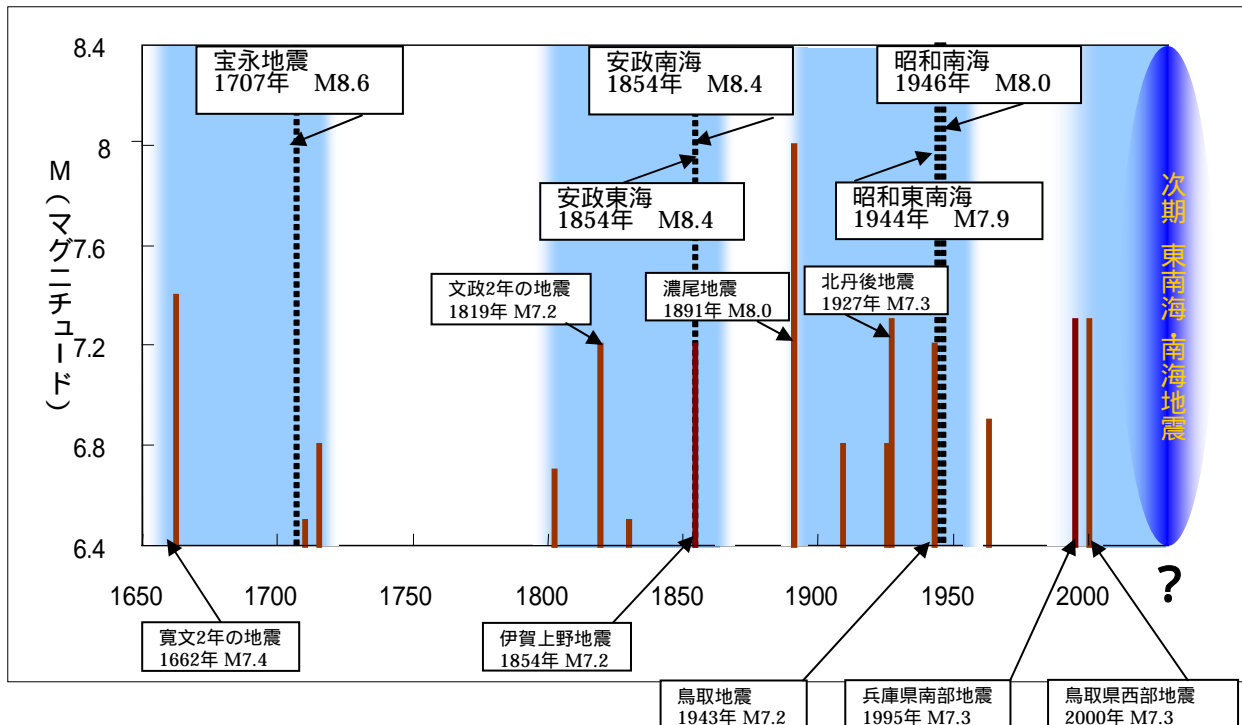
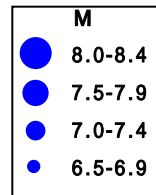


- 領域内で発生した地震
高さはMの大きさ
- ⋮ 東南海、南海地震の発生年
- 東南海、南海地震の発生前後に、内陸の地震活動が活発化していると想定される概ねの期間(約60年間)

西日本の地震活動

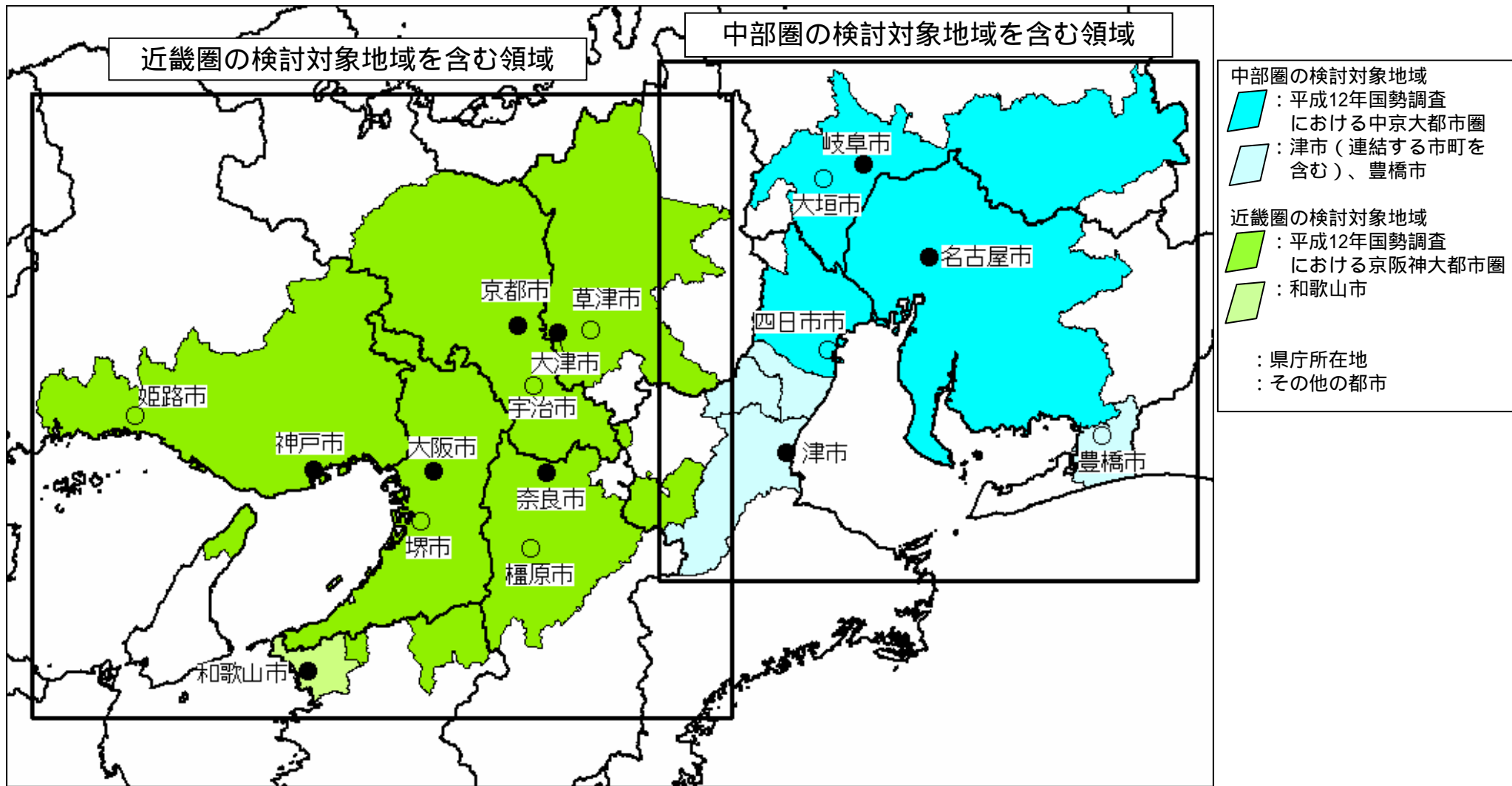


西日本の内陸で発生した地震の震央分布
(1650年以降、深さ30km以浅、M6.5以上)

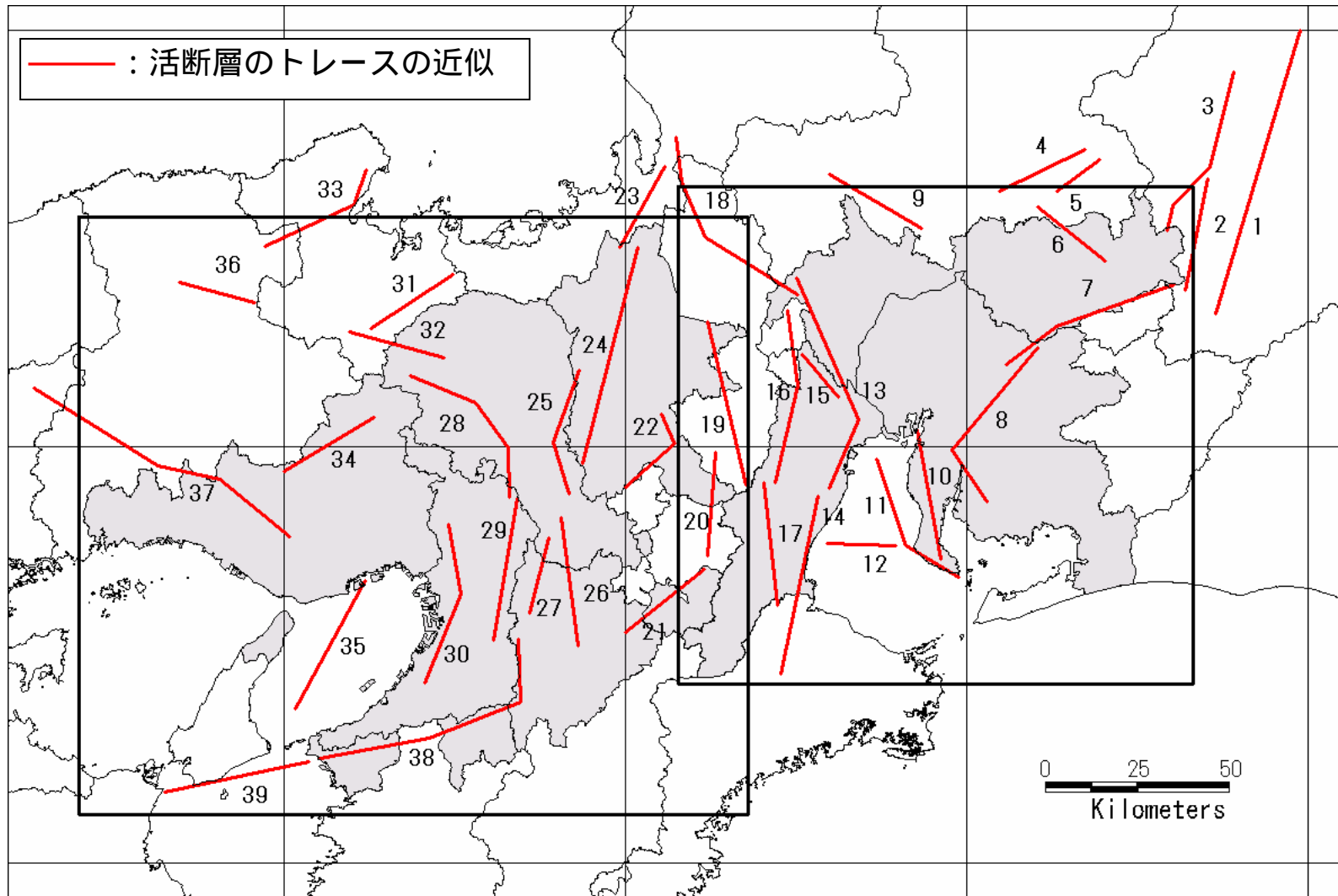


- 領域内で発生した地震
高さはMの大きさ
- ⋮ 東南海、南海地震の発生年
- 東南海、南海地震の発生前後に、内陸の地震活動が活発化していると想定される概ねの期間 (約60年間)

中部圏及び近畿圏における検討対象地域



検討対象とした活断層分布図



(注) 1(伊那谷断層帯)は、その地表トレースが検討対象地域を含む領域(黒枠)の外にあるが、この地震の断層は西傾斜で、断層面が黒枠内の領域に含まれるため、検討対象とした。

検討対象とした活断層リスト

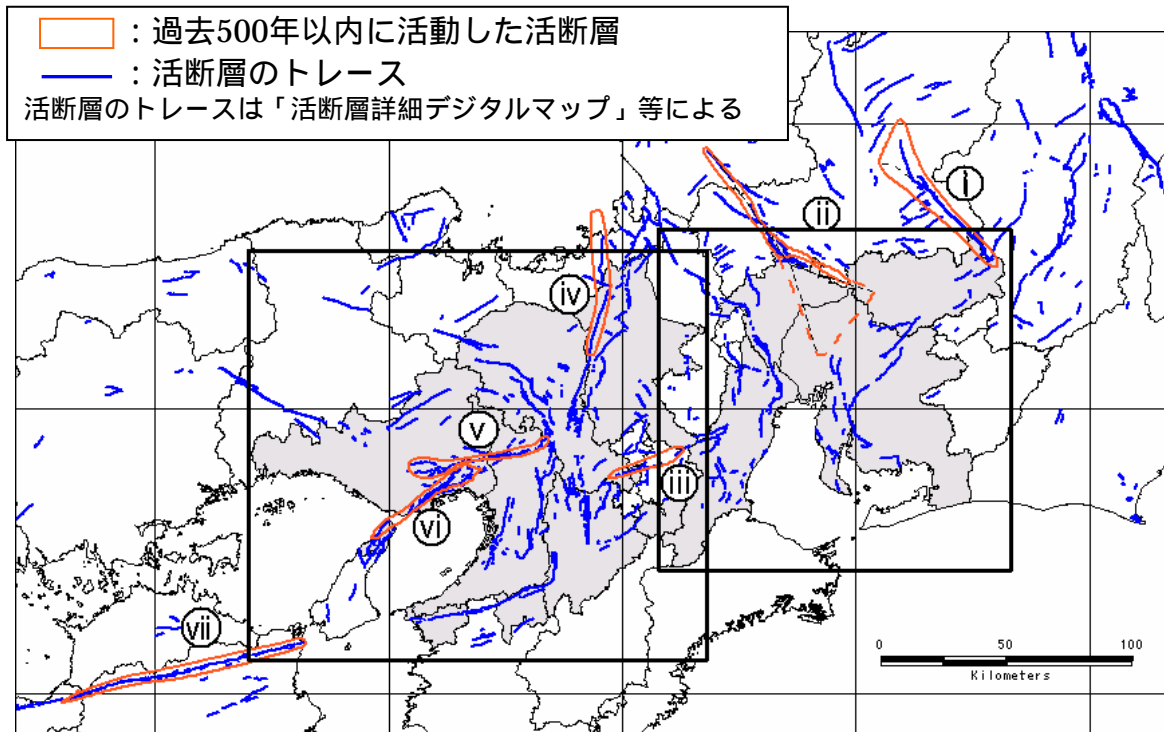
活断層 番号	断層名	M
1	伊那谷断層帯	8.0
2	清内路峠断層帯	7.4
3	木曾山脈西縁断層帯主部	7.6
4	佐見断層帯	7.2
5	白川断層帯	7.3
6	赤河断層帯	7.1
7	恵那山-猿投山北断層帯	7.7
8	猿投-高浜断層帯	7.6
9	武儀川断層	7.3
10	加木屋断層帯	7.4
11	伊勢湾断層帯主部	7.5
12	白子-野間断層	7.0
13	養老-桑名-四日市断層帯	7.7
14	布引山地東縁断層帯東部	7.6
15	養老山地西縁断層帯	7.0
16	鈴鹿東縁断層帯	7.6
17	布引山地東縁断層帯西部	7.4
18	柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯主部	7.7
19	鈴鹿西縁断層帯	7.6
20	頓宮断層	7.3
21	名張断層帯	7.3

活断層 番号	断層名	M
22	大鳥居断層帯	7.1
23	湖北山地断層帯北西部	7.2
24	琵琶湖西岸断層帯	7.8
25	花折断層帯	7.4
26	奈良盆地東縁断層帯	7.4
27	京阪奈丘陵撓曲断層帯	7.0
28	京都西山断層帯	7.5
29	生駒断層帯	7.5
30	上町断層帯	7.6
31	上林川断層	7.2
32	三峠断層	7.2
33	山田断層帯主部	7.4
34	御所谷断層帯	7.2
35	大阪湾断層帯	7.5
36	養父断層帯	7.0
37	山崎断層帯主部	8.0
38	中央構造線断層帯 (金剛山地東縁-和泉山脈南縁)	7.8
39	中央構造線断層帯 (紀淡海峡-鳴門海峡)	7.5

M : マグニチュード

対象から除外した活断層

過去500年以内に活動した活断層については、
今後100年程度以内に地震が発生する可能性はほとんどないことから**除外**



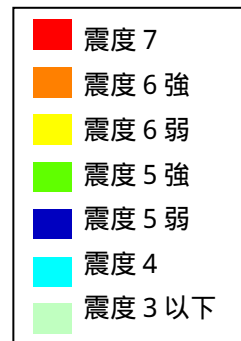
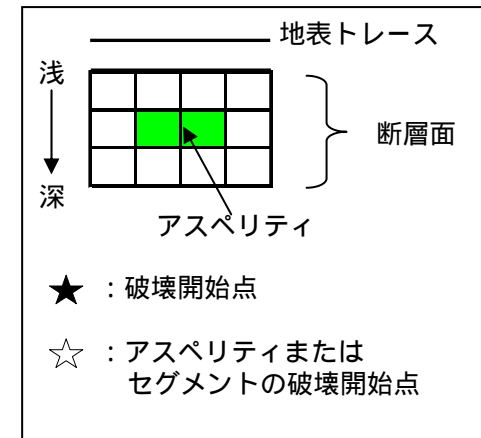
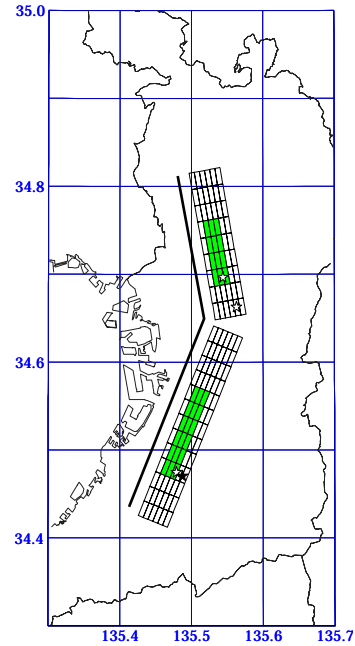
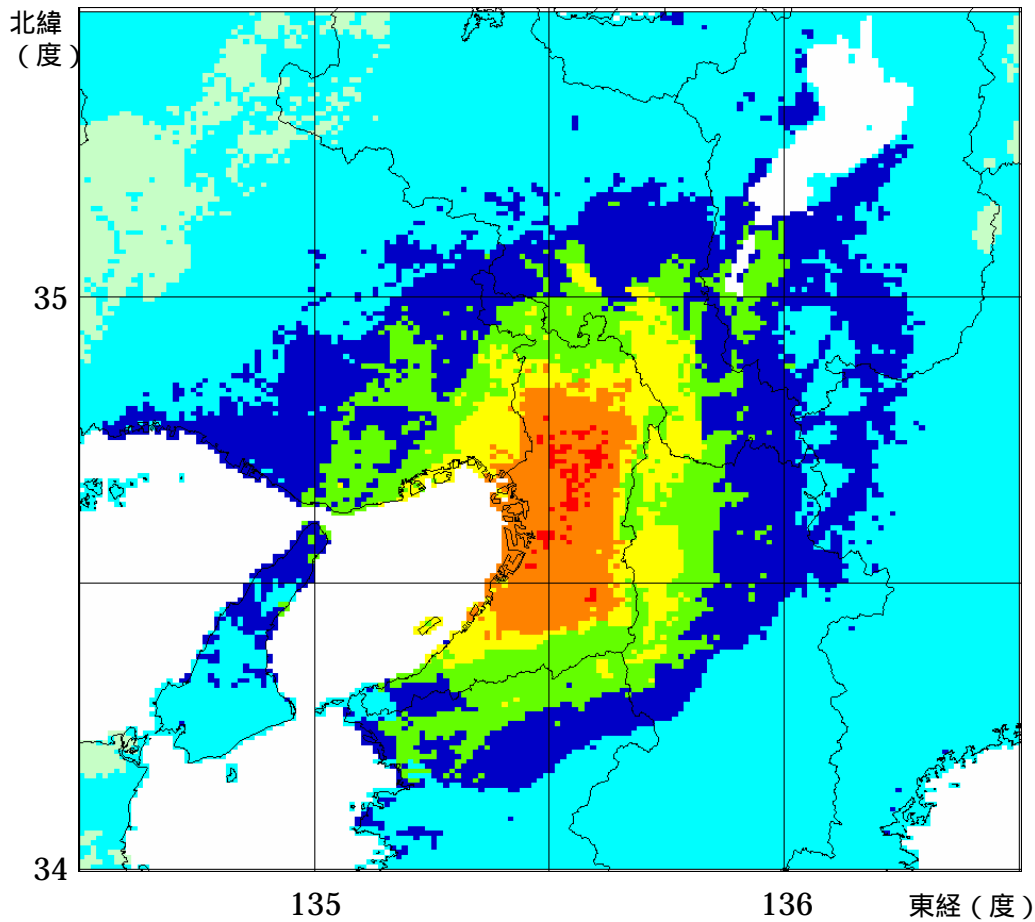
過去500年以内に活動した活断層
(小田切・島崎(2001)および地震調査委員会「長期評価」による)

NO.	断層名	地震名
○	阿寺断層帯主部	1586年(天正13年)天正地震
○	濃尾断層帯主部(根尾谷断層、梅原断層)および温見断層北西部	1891年(明治24年)濃尾地震
○	木津川断層帯	1854年(安政元年)伊賀上野地震
○	三方断層帯 花折断層帯北部	1662年(寛文2年)の地震
○	有馬-高槻断層帯	1596年(慶長元年)慶長伏見地震
○	六甲・淡路島断層帯主部	1995年(平成7年)兵庫県南部地震
○	中央構造線断層帯 (讃岐山脈南縁-石鎚山脈北縁東部)	(16世紀の地震)

応急対策用震度分布図

うえ まち

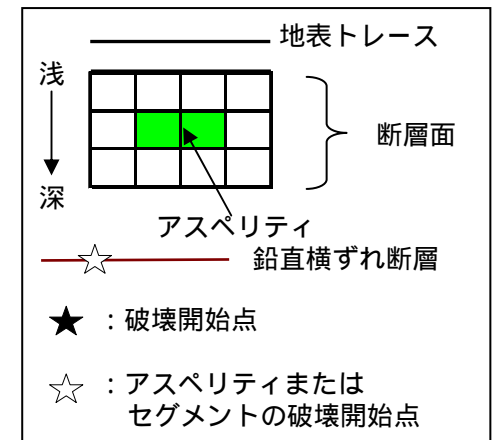
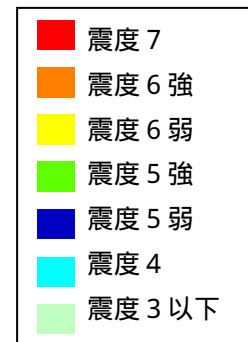
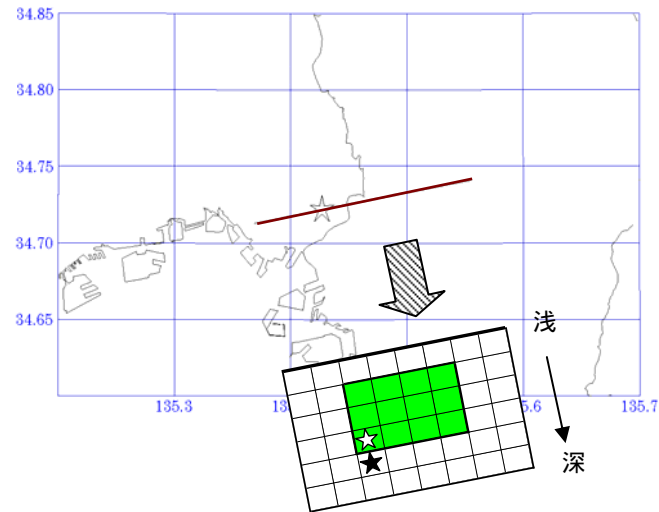
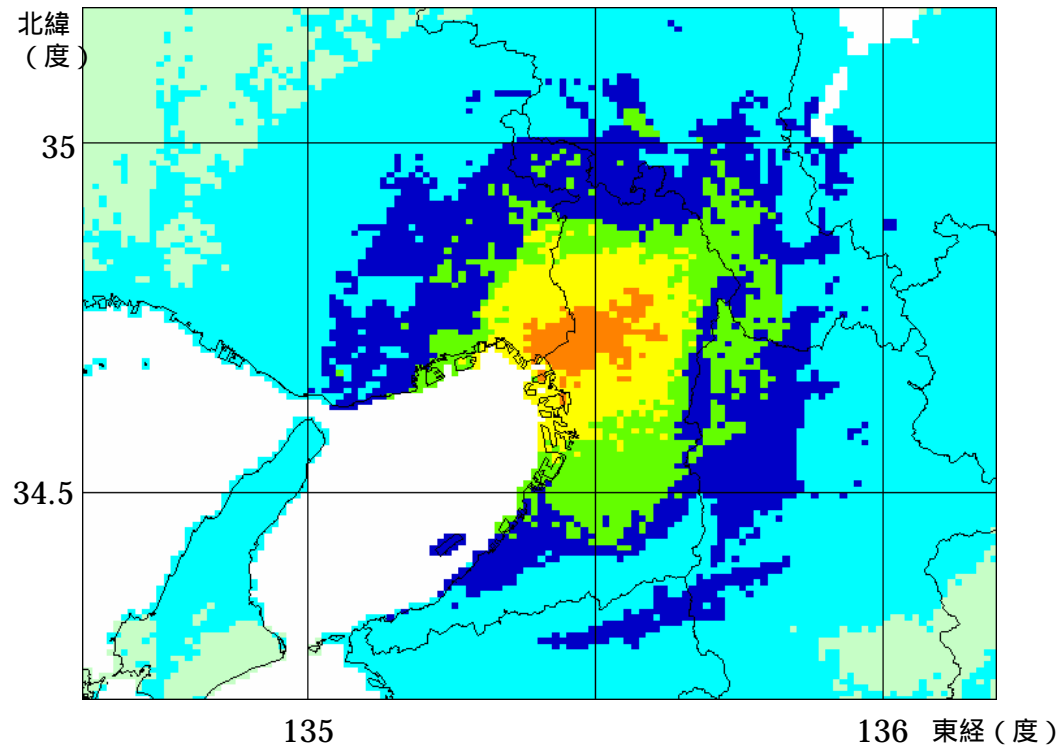
上町断層帯の地震(M7.6)



大阪平野の中心部の一部では震度7、大阪平野のほとんどで震度6強となっている。

応急対策用震度分布図

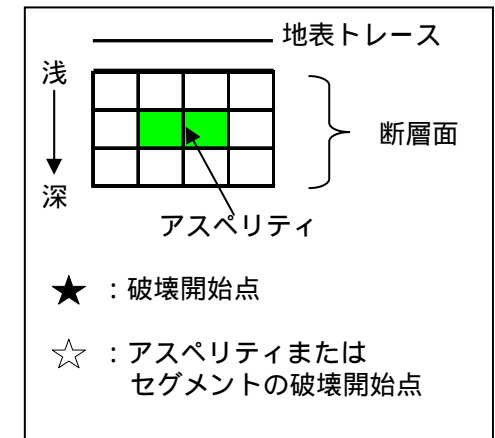
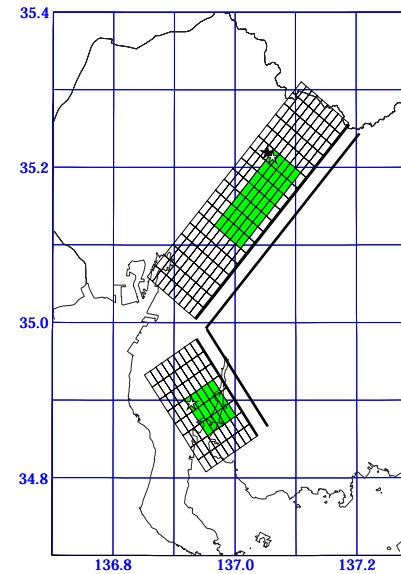
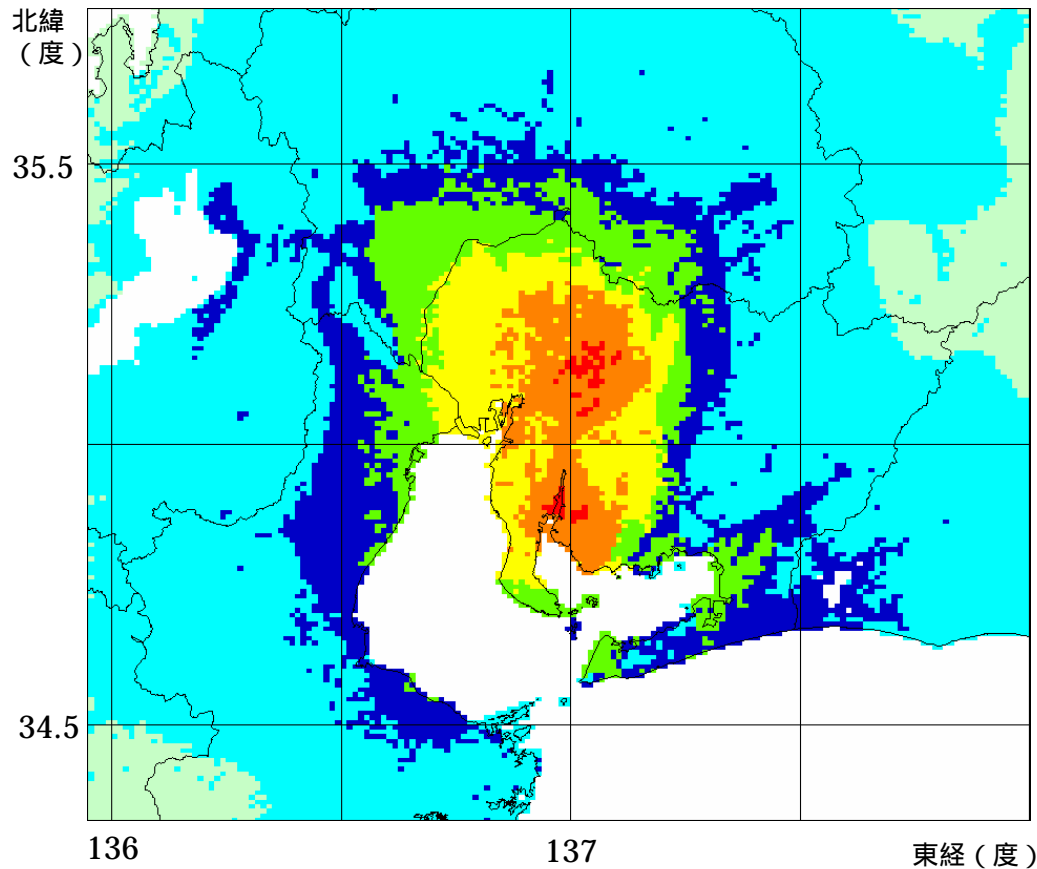
阪神地域直下M6.9の地震



大阪平野中心部の淀川周辺の地域で震度6強となっている。

応急対策用震度分布図

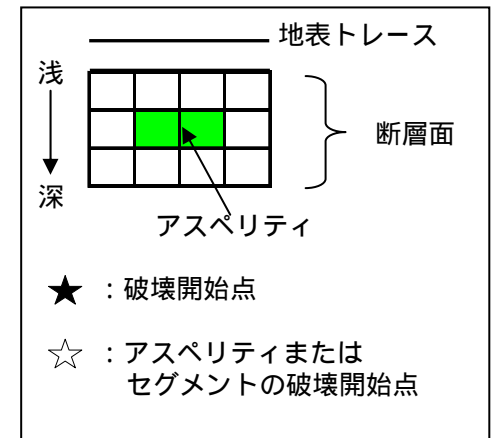
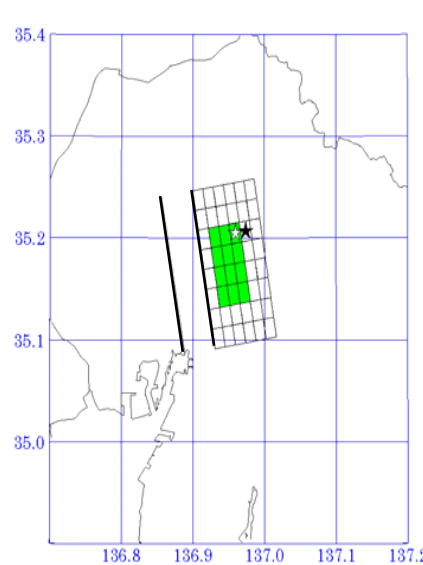
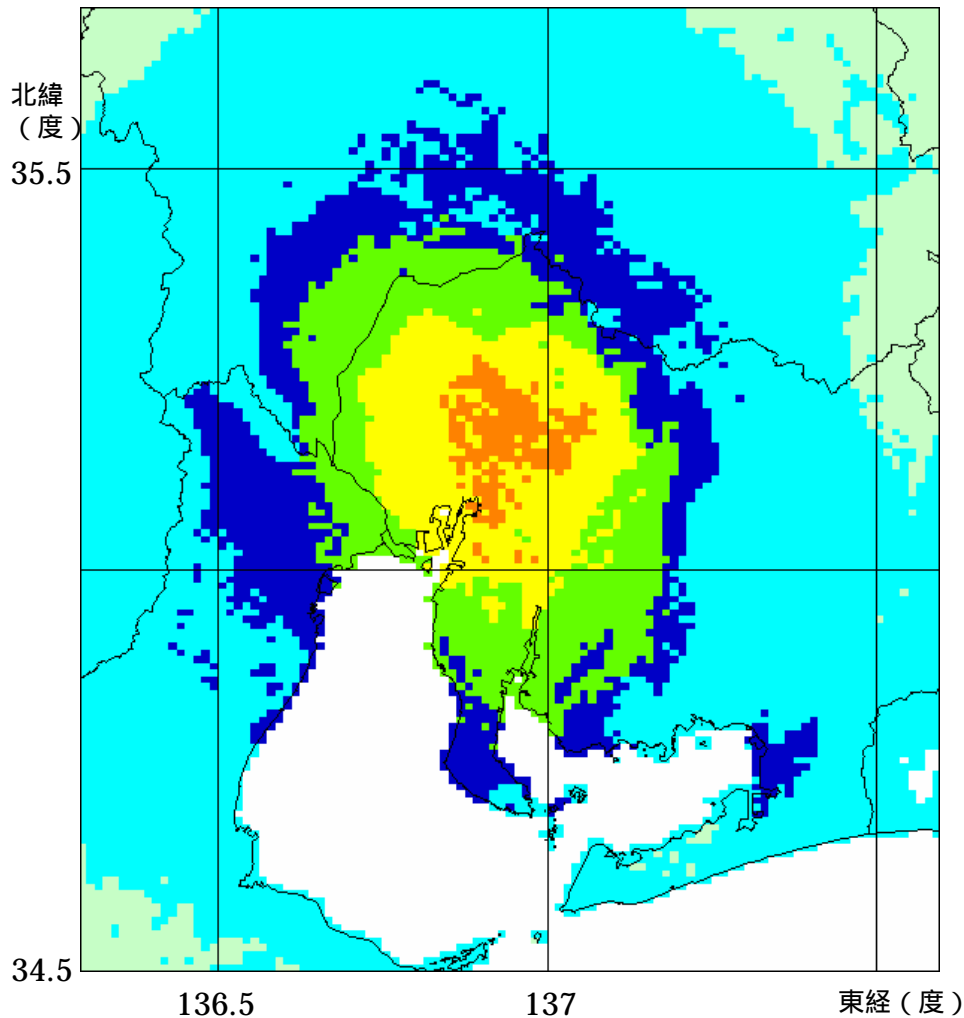
さなげ たか はま 猿投 高浜断層帯の地震 (M7.6)



濃尾平野東部(名古屋市東部からその東方にかけて)、また岡崎平野南部(衣浦港周辺)の一部では震度7となっており。愛知県西部(濃尾平野東部から岡崎平野にかけて)の広い範囲では震度6強以上となっている。

応急対策用震度分布図

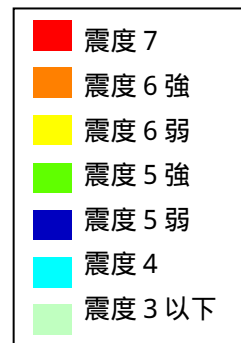
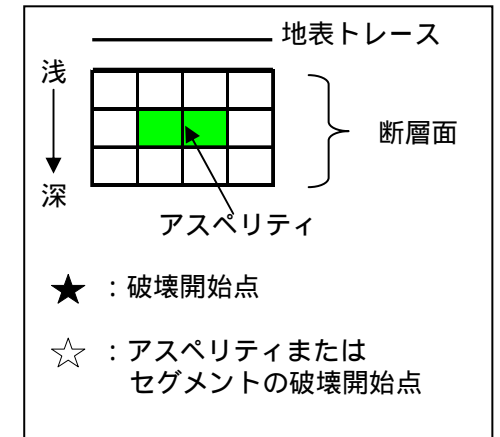
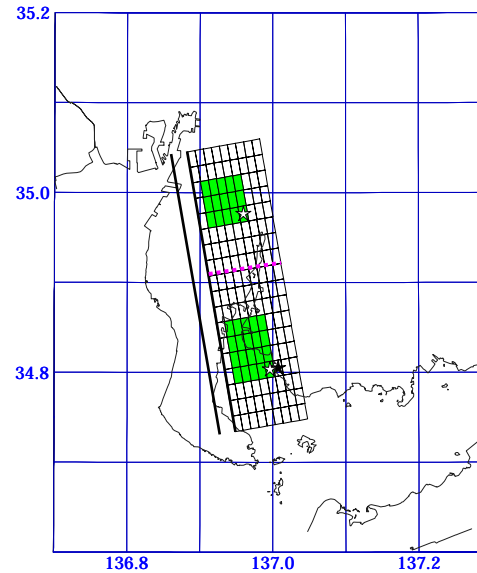
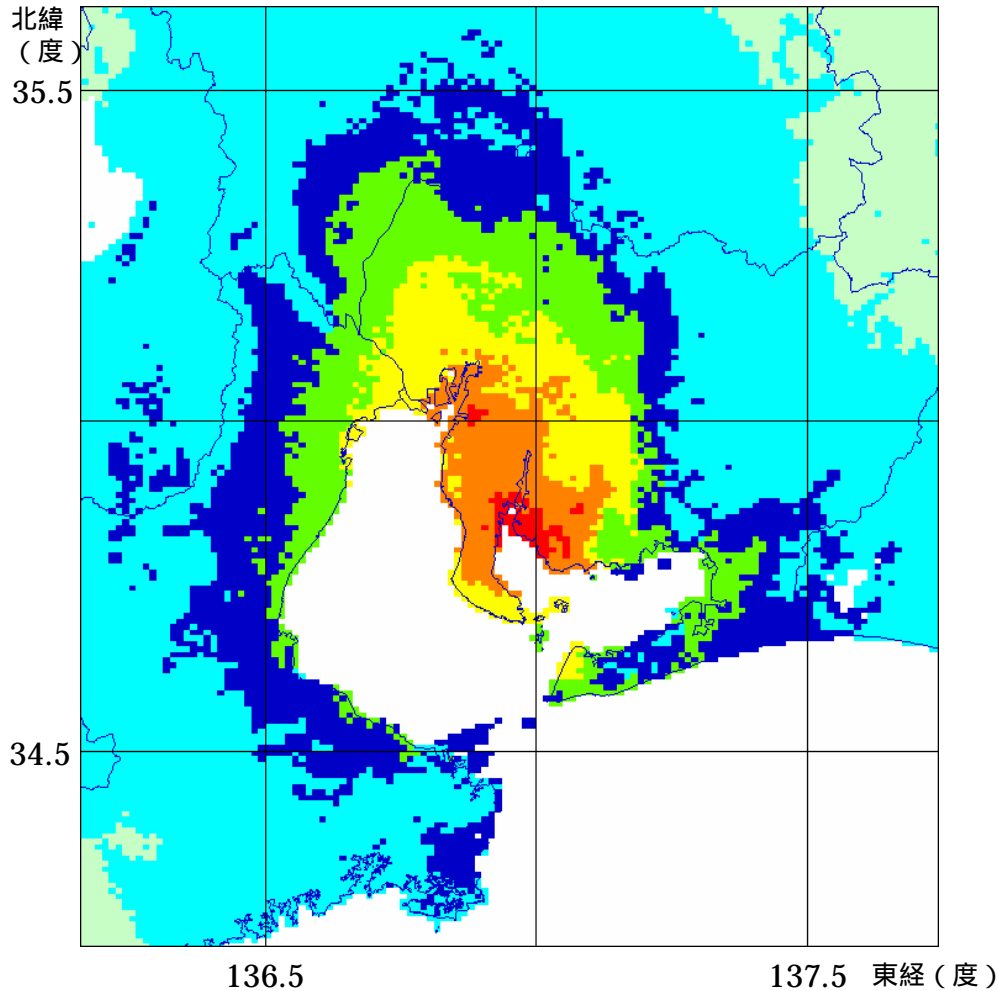
名古屋市直下M6.9の地震



濃尾平野東部(名古屋市東部やその東方)で震度6強となっている。

応急対策用震度分布図

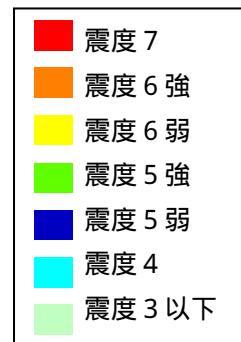
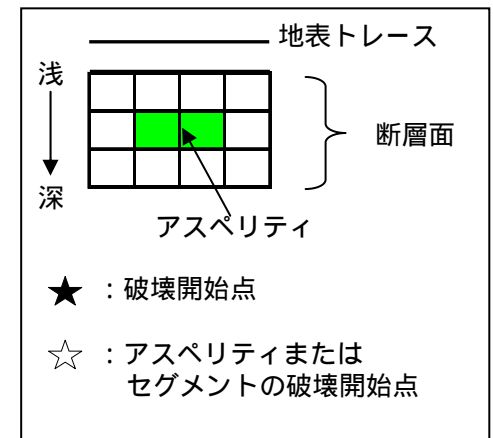
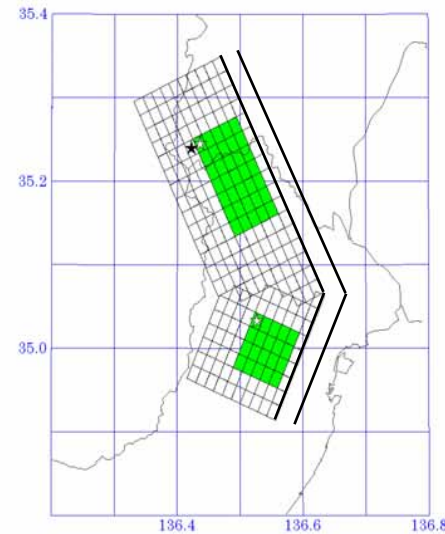
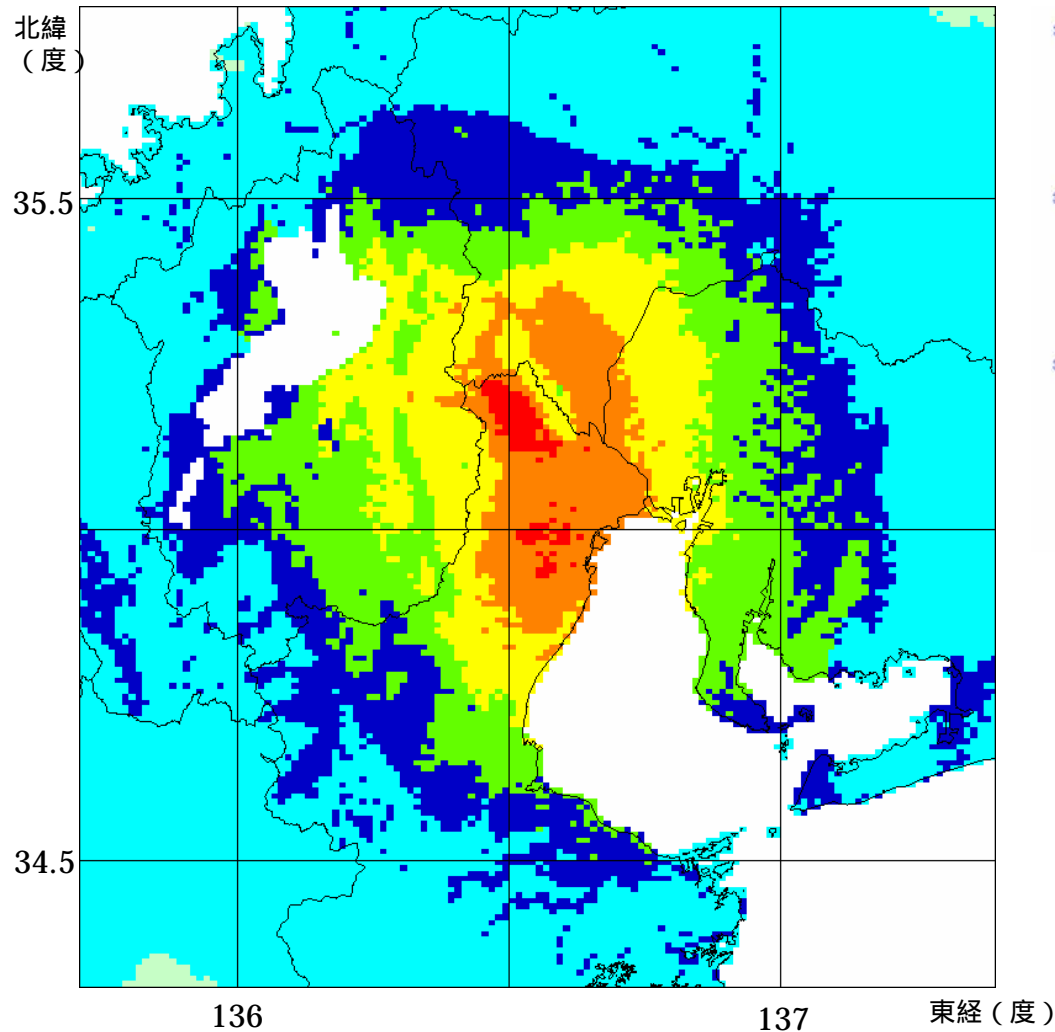
かぎや 加木屋断層帯の地震(M7.4)



岡崎平野(衣浦湾周辺からその東方にかけて)と濃尾平野南部(東海市、知多市)の一部で震度7となっており、愛知県南西部(濃尾平野南部から岡崎平野にかけて)の広い範囲で震度6強以上となっている。

応急対策用震度分布図

よう ろう くわ な よっか いち 養老 - 桑名 - 四日市断層帯の地震 (M7.7)

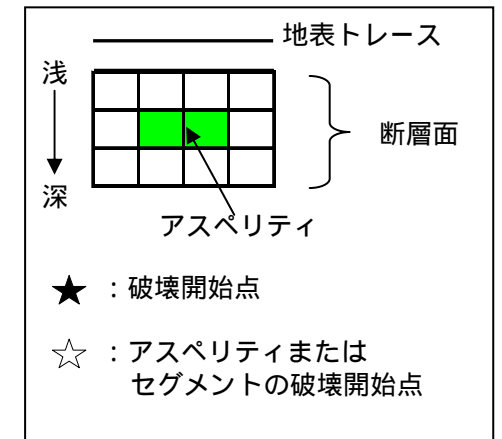
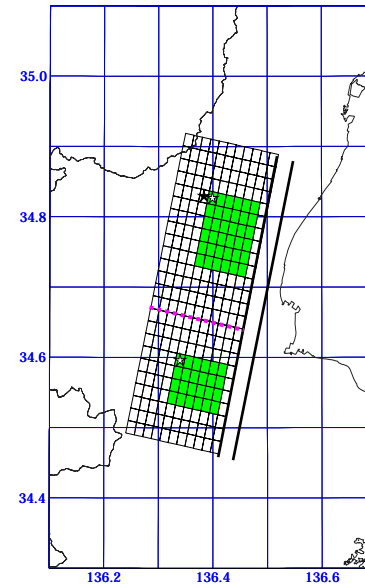
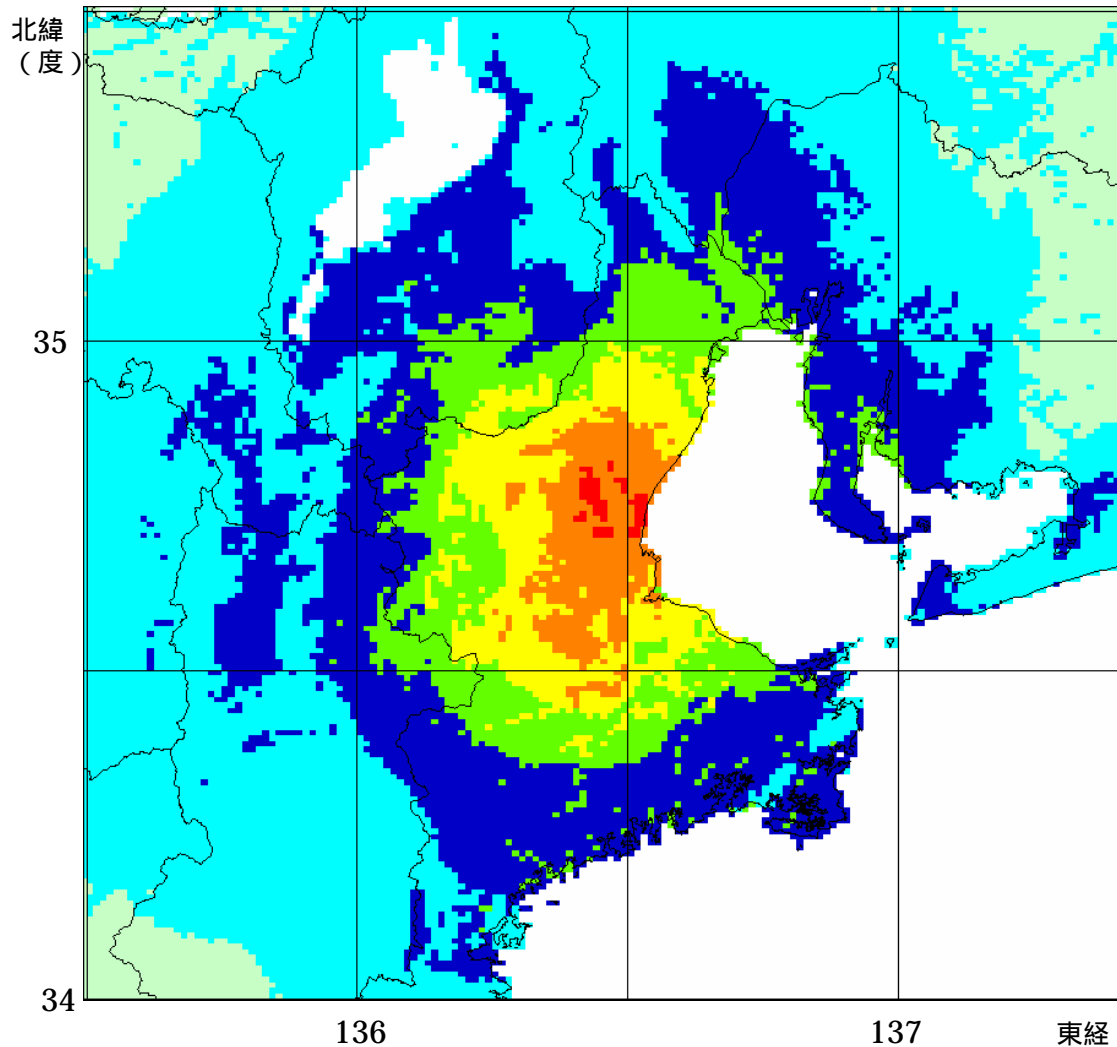


伊勢平野北部(三重県の北西部(いなべ市)や四日市市など)の一部で震度7となっており、愛知県西部、岐阜県南部、三重県北部を含む広い範囲で震度6強となっている。

応急対策用震度分布図

ぬの びき さん ち とう えん

布引山地東縁断層帯東部の地震(M7.6)

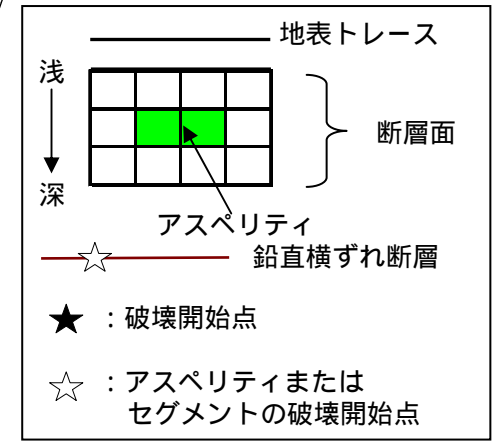
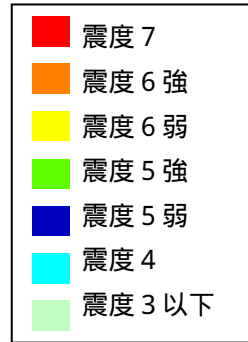
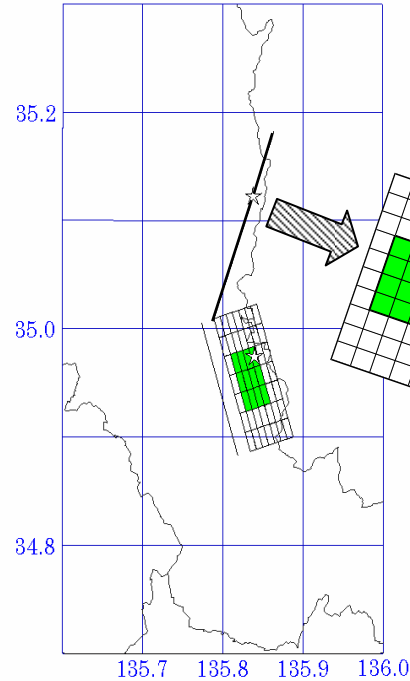
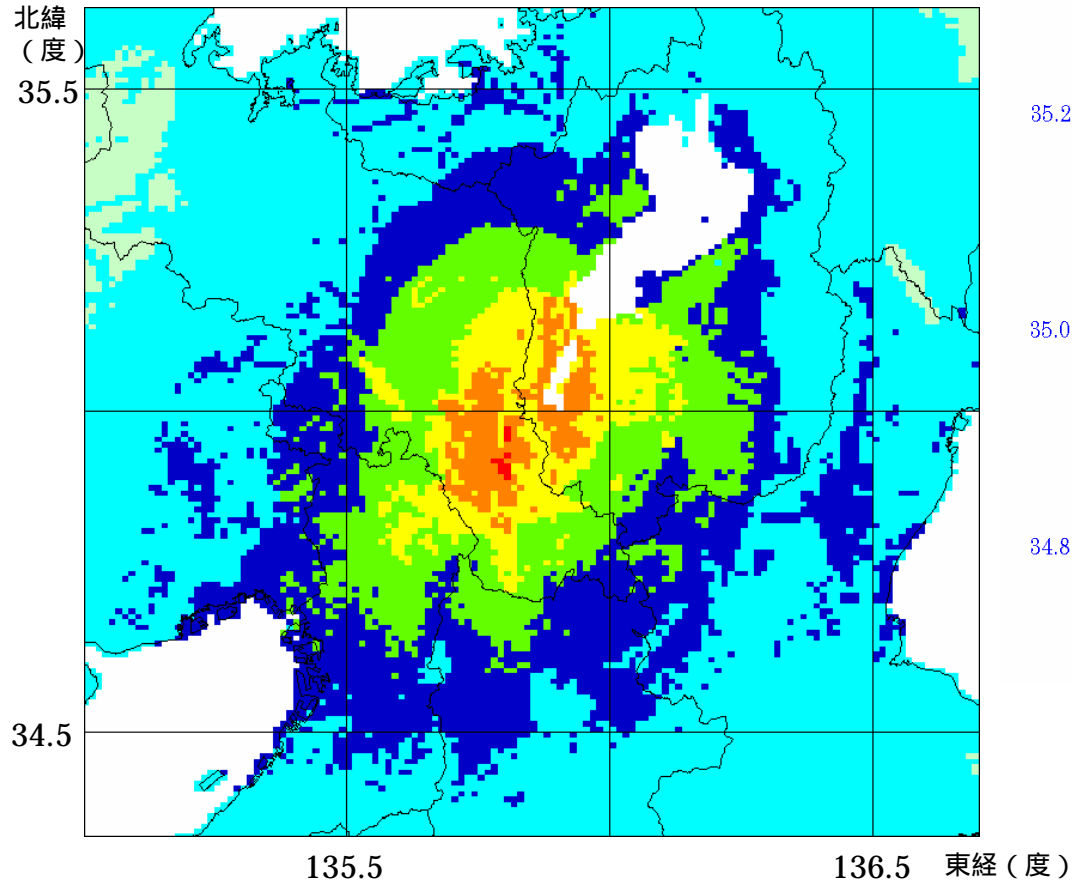


伊勢平野北部(津市)の一部で震度7となり、三重県北部の広い範囲で震度6強以上となっている。

応急対策用震度分布図

はな おれ

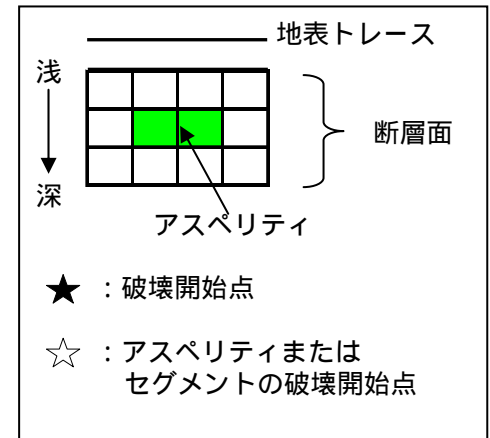
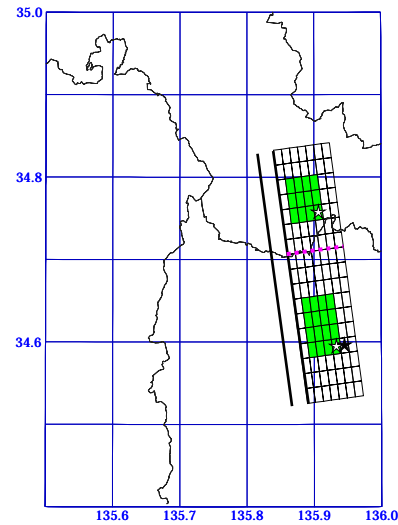
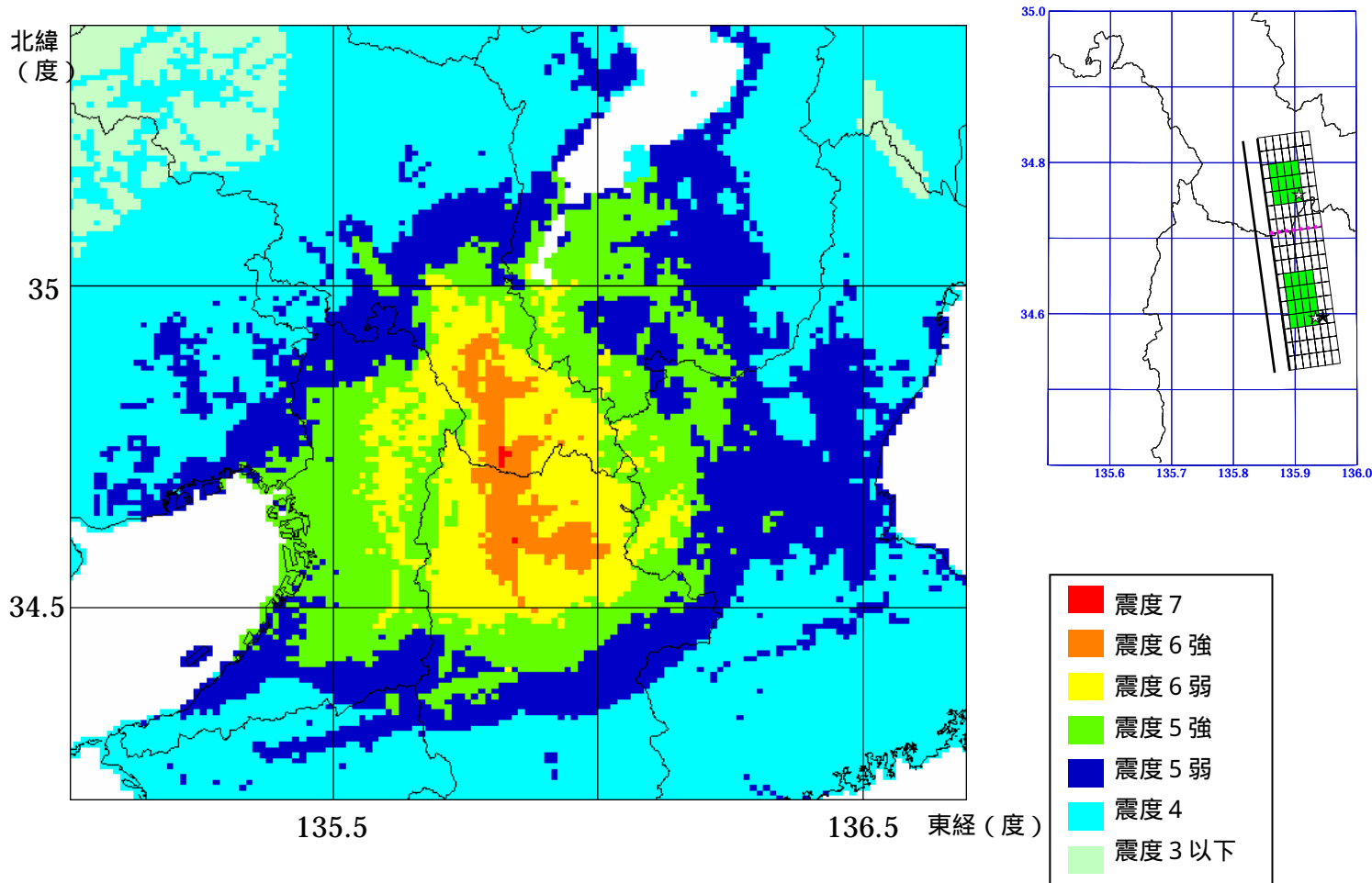
花折断層帯の地震(M7.4)



京都盆地内の一部で震度7となり、琵琶湖南部周辺や京都盆地を含む広い範囲で震度6以上となっている。

応急対策用震度分布図

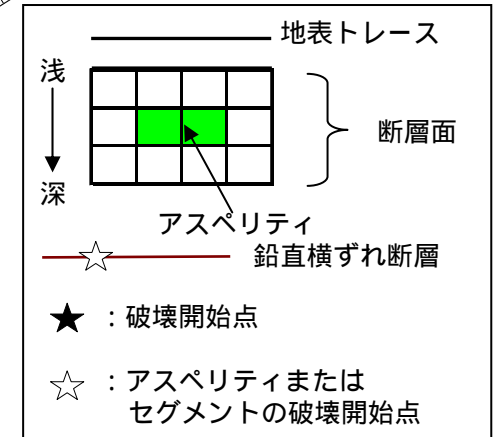
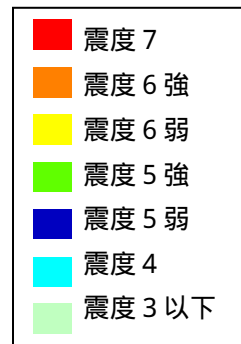
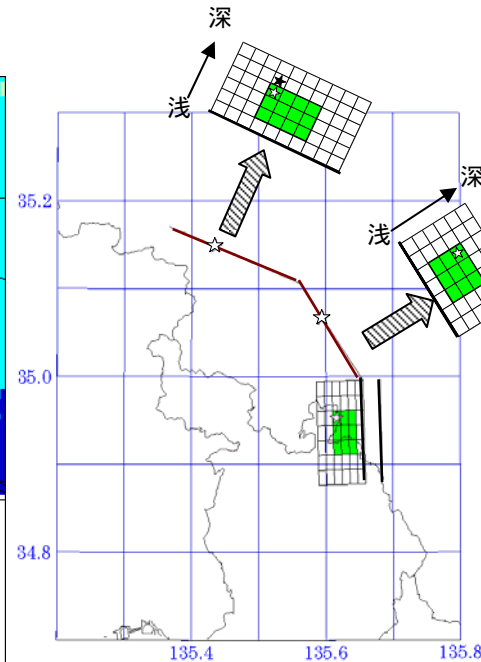
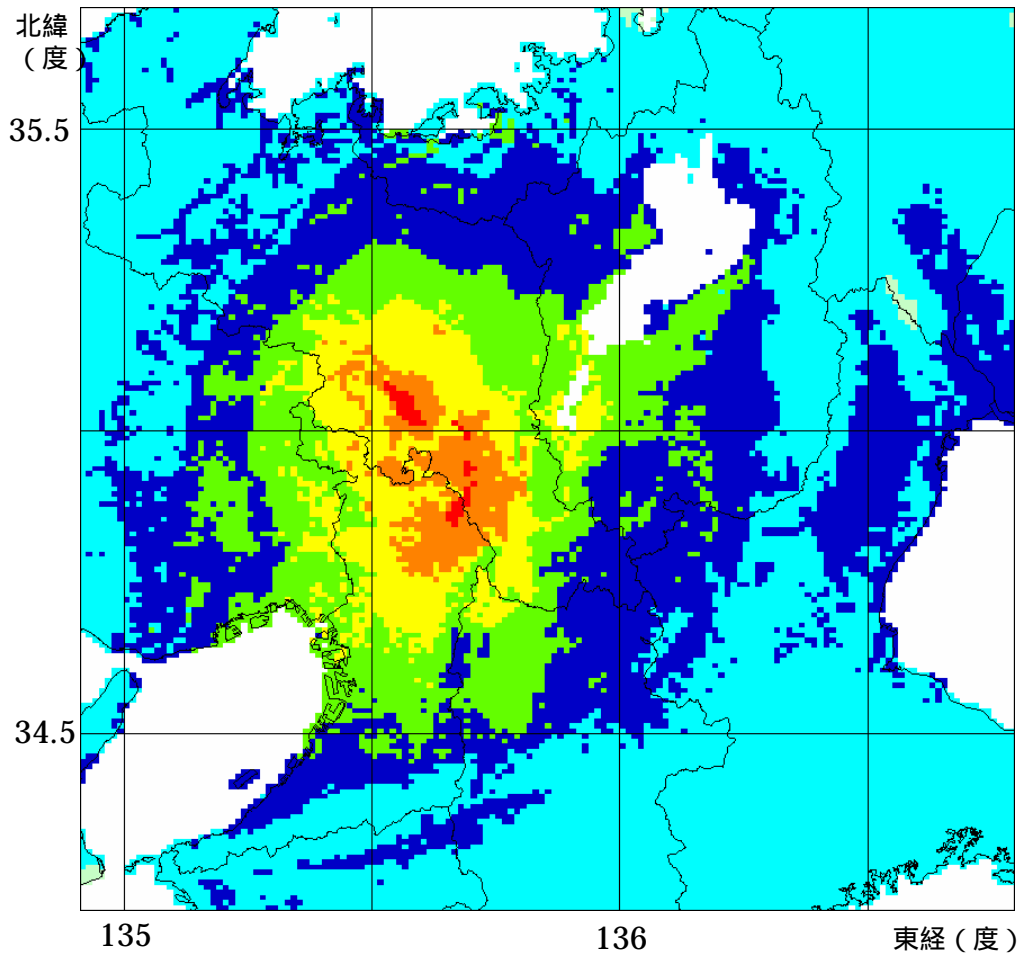
な ら ぼん ち どう えん
奈良盆地東縁断層帯の地震 (M7.4)



京都府南端(木津町など)および奈良盆地内の一部では震度7、京都盆地から奈良盆地にかけての断層周辺で震度6強以上となっている。

応急対策用震度分布図

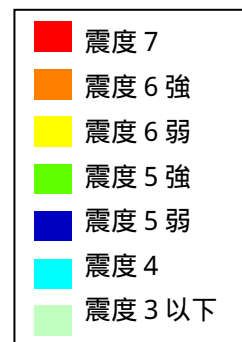
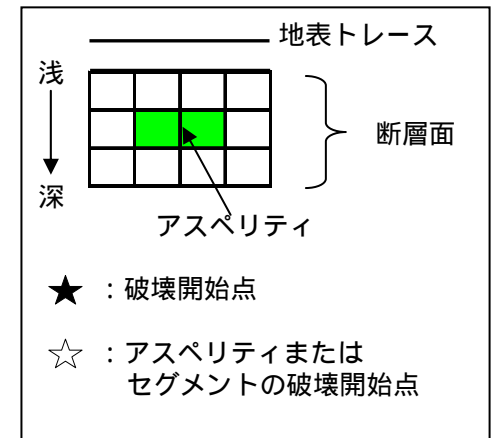
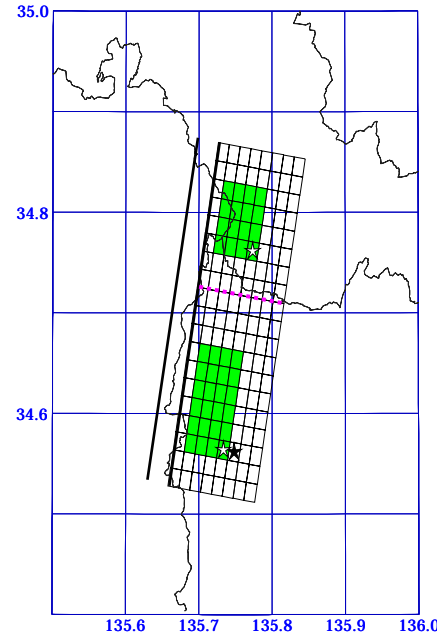
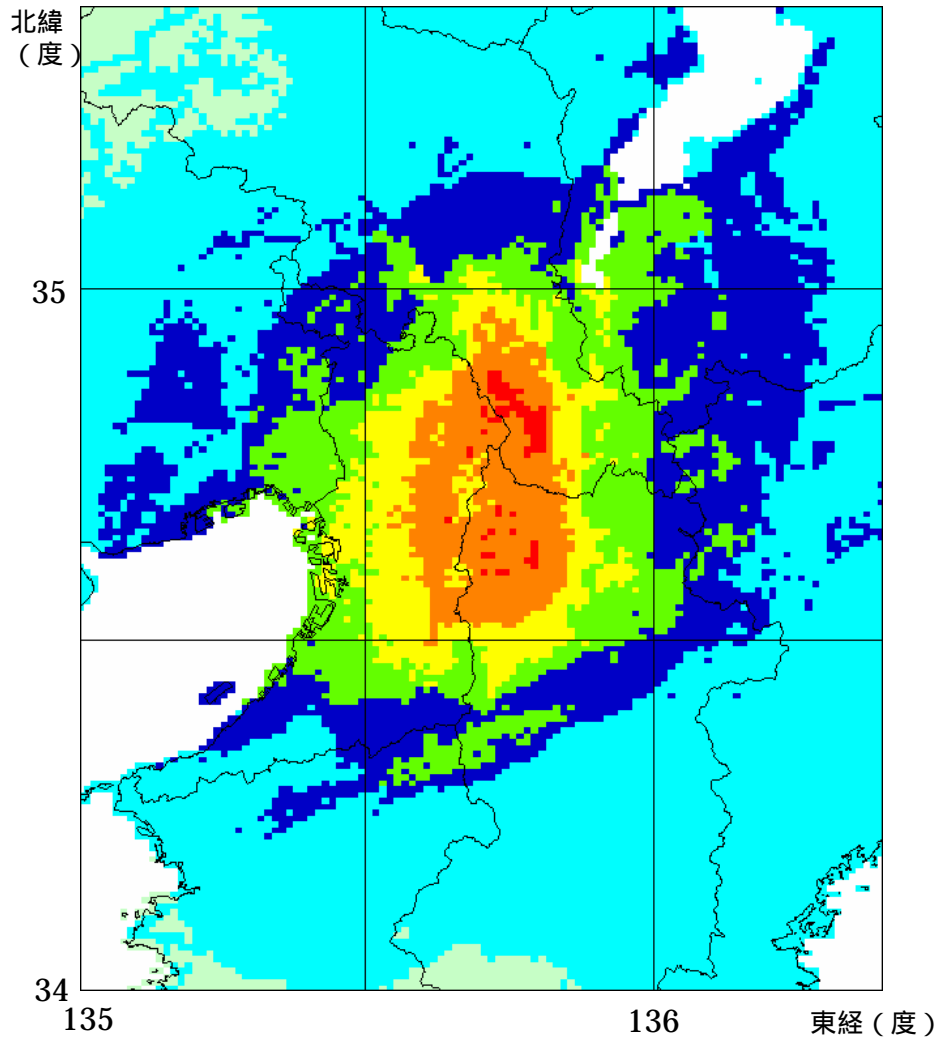
きょう と にし やま 京都西山断層帯の地震 (M7.5)



亀岡盆地中心付近や京都盆地内、大阪平野内の一部(淀川周辺)では震度7、亀岡盆地、京都盆地および大阪平野の北東部の断層周辺で震度6強以上、となっている。

応急対策用震度分布図

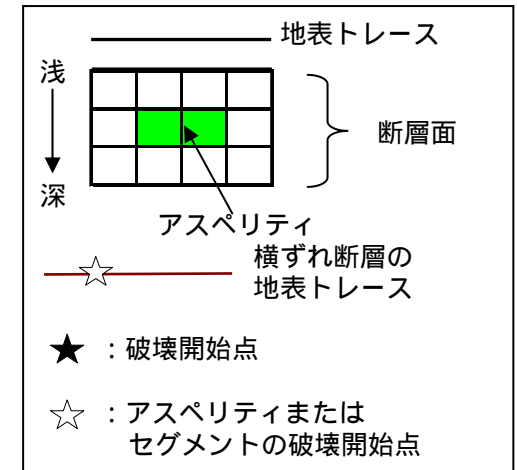
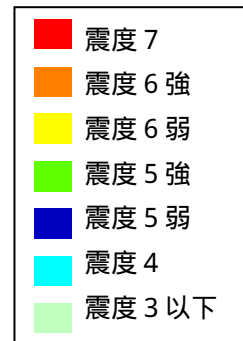
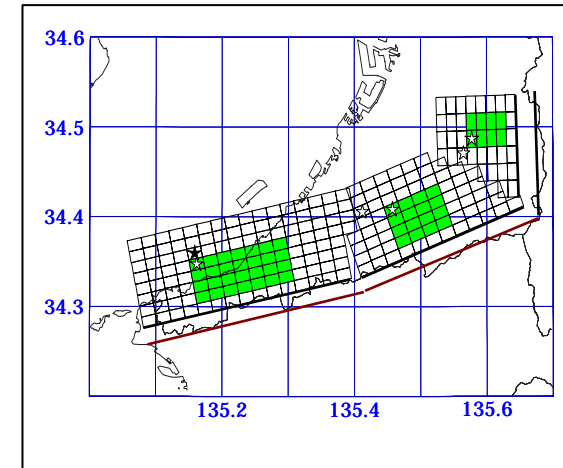
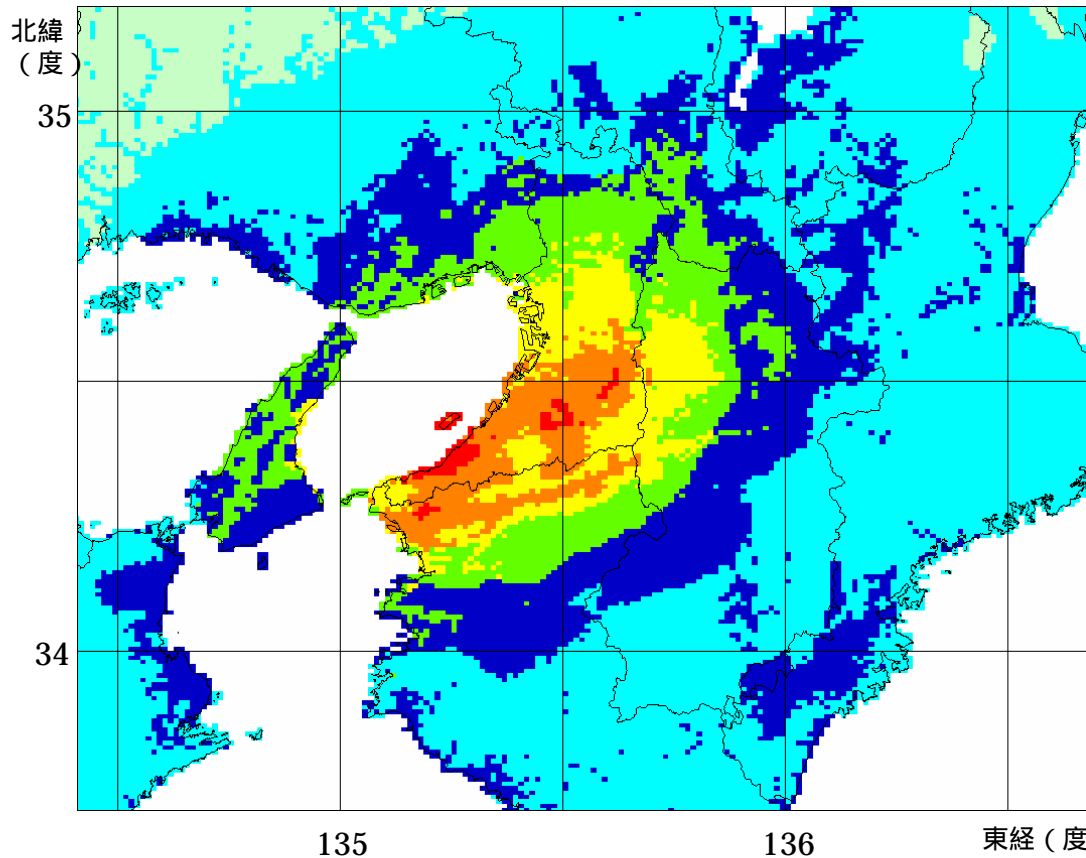
いこま 生駒断層帯の地震(M7.5)



京都盆地南部の木津川沿いや奈良盆地内の一部では震度7となっており、京都盆地から奈良盆地にかけて、さらに生駒山地、大阪平野東部にかけての広い範囲で震度6強以上となっている。

応急対策用震度分布図

ちゅうおうこう ぞうせん こんごう さん ち とうえん いずみ さんみやくなんえん
 中央構造線断層帯(金剛山地東縁 - 和泉山脈南縁)の地震(M7.8)

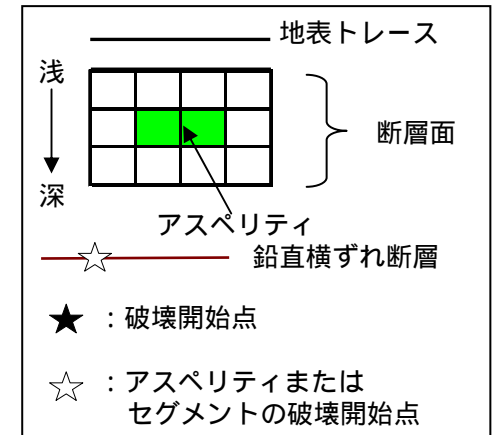
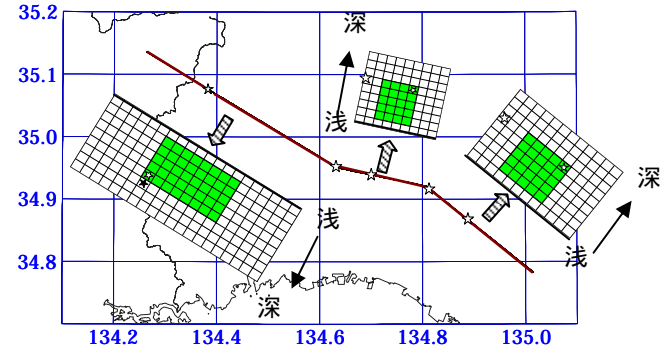
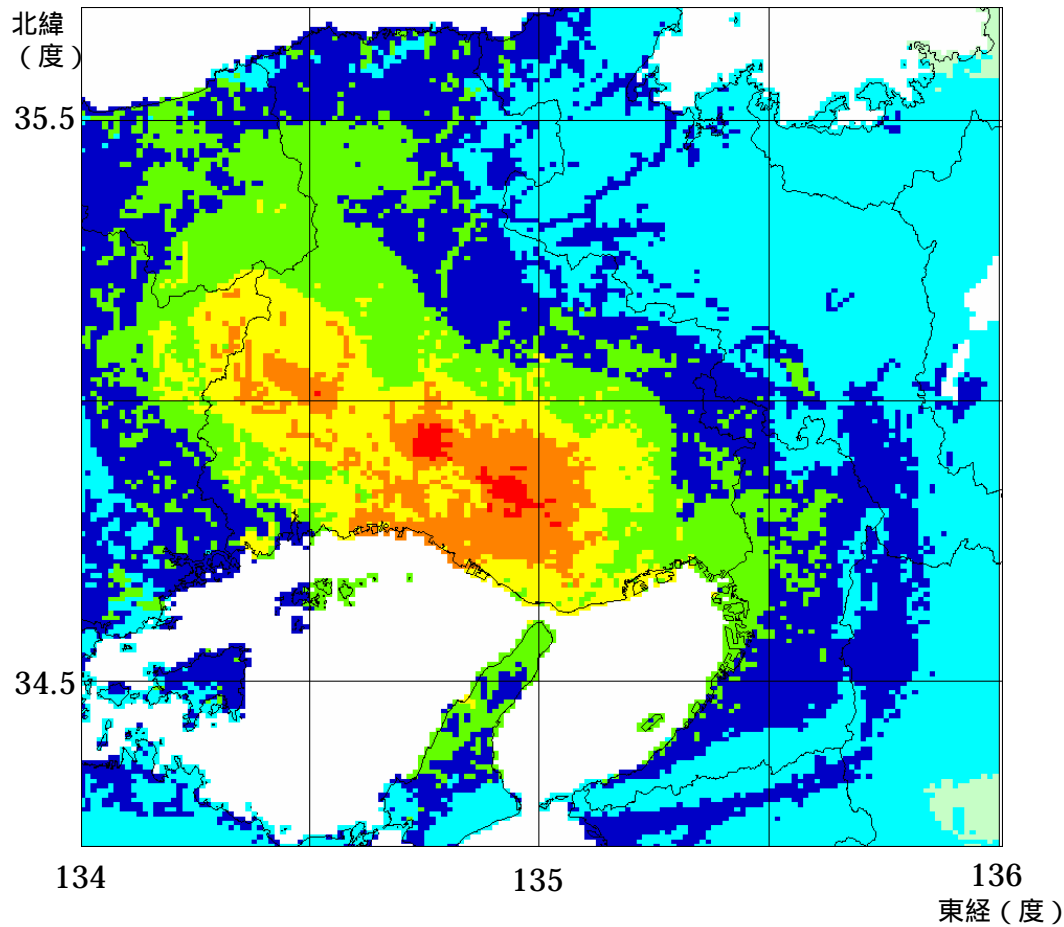


大阪府平野南部や和歌山平野内の河川に沿った一部で震度7、大阪平野(大阪府)南部と和歌山平野(和歌山県北部)の紀ノ川周辺で震度6強となっている。

応急対策用震度分布図

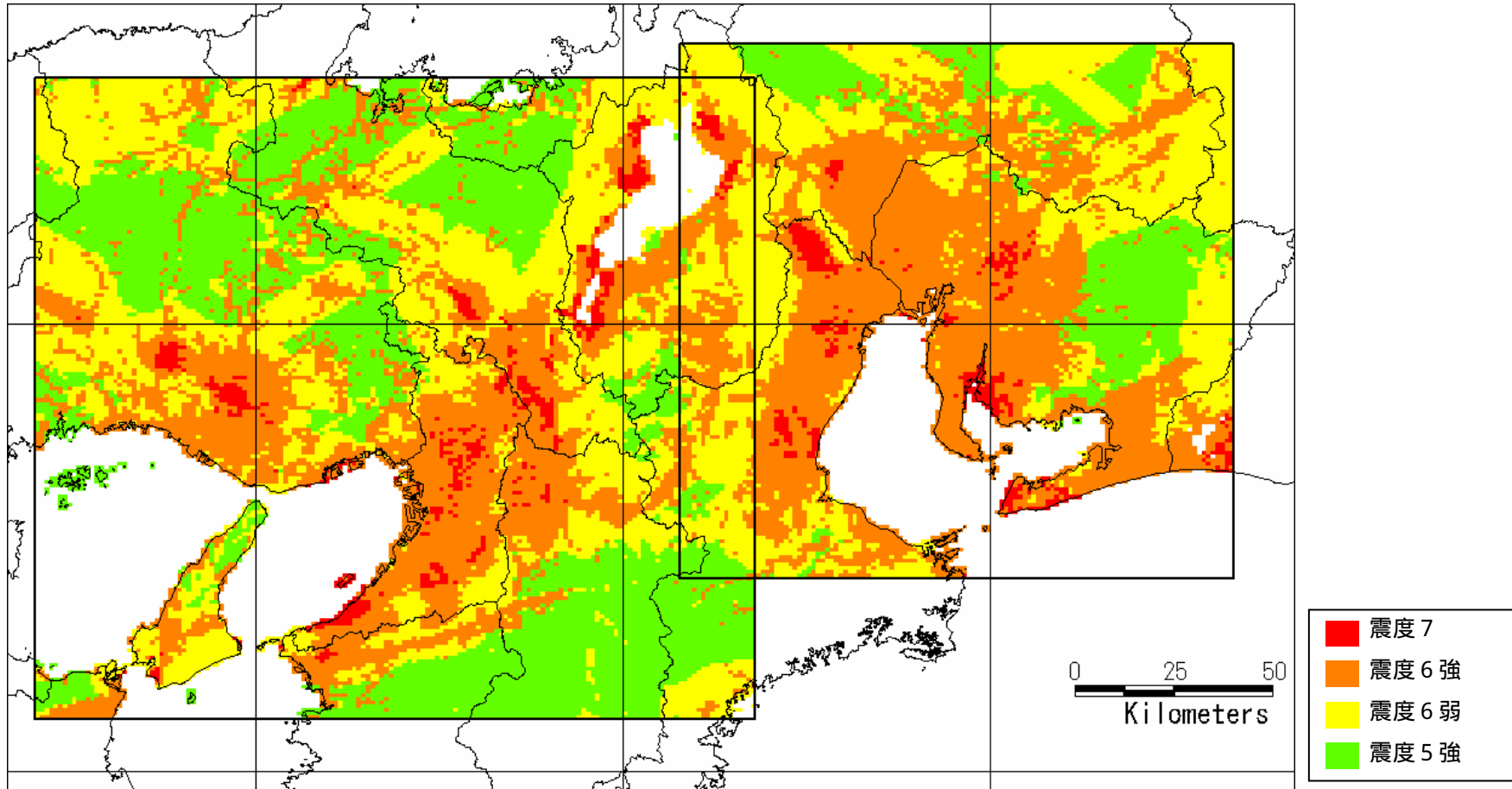
やま さき

山崎断層帯主部の地震 (M8.0)



兵庫県南部の断層(アスペリティ)に近い加古川等の河川周辺の一部で震度7となっており、兵庫県南部の広い範囲では震度6強となっている

予防対策用震度分布図



M7.0以上の活断層、M6.9の直下の地震、
東南海・南海地震及び東海地震の震度分布を重ね合わせ、
各地点の最大の震度をとったもの